

2024年度 医学部 IR 報告書

一過年度卒業生による本学の振り返りー

藤田医科大学 I R 推進センター

医学部 I R 分室

2024 年 12 月 31 日



藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

2024年度 医学部 IR 報告書

一過年度卒業生による本学の振り返りー

目次

概要

1. 背景と目的
2. 対象
3. 方法
4. 結果 (1) 卒後2年度目における調査結果
(2) 各卒業基準項目の卒業時達成度と臨床研修における貢献度の比較
5. まとめ

資料 (調査票)

2024年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

高村真広、金子祥子、中村早紀、飯塚成志、若月徹、古澤彰浩、

一瀬千穂、浦久保秀俊、島向健太、藤江里衣子、吉本潤一郎

概要

藤田医科大学医学部では、カリキュラム改革と教育環境の改善について学生の視点からの評価とフィードバックを受けるために、2020 年度から卒後 1 年目の卒業生を対象に「卒業生アンケート」を実施してきた。その評価が卒後の臨床研修の体験を通して変化する可否を検証するため、卒後 2 年目にあたる本学医学部 2022 年度卒業生を対象にアンケート調査を行った。具体的には、本学での卒業基準の達成が臨床研修にどの程度貢献しているかを評価いただくとともに、在学時の教育内容の充実度を振り返っていただき、本学のカリキュラムや教育環境に対する臨床研修医の視点からの評価を調査した。

今回の調査では、卒後 2 年目にあたる 2022 年度藤田医科大学医学部卒業生 107 名を対象とした。調査期間は、2024 年 8 月 26 日から 9 月 30 日までであった。

その結果、61 人から回答が得られた（回収率 57.0%）。卒業基準項目のうち、臨床研修に対して最も貢献度が高いと評価されたのは、「コミュニケーション能力」であり、最も低いと評価されたのは、「独創的探究心」であった。卒後 1 年目時点と比較すると、卒後 2 年目時点における各卒業基準項目の評価は、ほぼすべての項目において平均得点としては減少しているものの、有意差までは認められなかった。教育内容について、最も充実していたと評価を受けたのは「臨床実習」（33 人）で、最も改善が必要と評価を受けたのは「英語教育」（13 人）であった。

1. 背景と目的

本学医学部では、これまでに取り組んできたカリキュラム改革と教育環境の改善について学生の視点からの評価とフィードバックを受けるために、2020 年度から卒後 1 年目の卒業生を対象にアンケート調査を実施してきた。その結果は「藤田医科大学医学部 IR 報告書―卒業生アンケート 現状と 3 年間の傾向―」という題目で毎年公開している。

卒後すぐの調査では、学生時代の記憶が鮮明である一方、医師・社会人として身分にも慣れ、医療現場で様々な経験や知識を身につけるにつれて、大学時代のカリキュラムや教育環境に対する評価の視点も変化していく可能性が考えられる。

以上の背景から、卒後 2 年目にあたる本学医学部 2022 年度卒業生を対象に、本学での卒業基準の達成が臨床研修にどの程度貢献しているかを評価いただくとともに、在学時の教育内容の充実度を振り返っていただき、本学のカリキュラムや教育環境に対する臨床研修医の視点からの評価を調査した。また、卒後 1 年目に実施した「卒業生アンケート」の結果とも比較し、卒業時の達成度と臨床研修における貢献度の関連について分析した。

2. 対象

今回の調査では、卒後 2 年目にあたる 2022 年度藤田医科大学医学部卒業生 107 名を対象とした。

3. 方法

調査対象者全員に対して、アンケートへの協力依頼文書を 2024 年 8 月 26 日にメールまたは郵便にて送付し、無記名自記式調査を実施した。依頼文書には、本調査の趣旨とアンケートへの回答方法の説明を記し、アンケートの回収は Google 社のアンケートツール(Google フォーム)を利用した。アンケートの回収期間は 2024 年 8 月 26 日から 9 月 30 日までであった。

調査内容は、末尾の「資料」の通りである。【現在の臨床研修における各卒業基準項目の貢献度】(7 問)、【教育内容の振り返り】(最も評価できる、最も改善が必要だと思う項目をそれぞれ選択する 2 問)の計 9 問とした。回答方法は、【現在の臨床研修における各卒業基準項目の貢献度】では、設問文「下記の卒業コンピテンシーを卒業時に達成したことは、現在の臨床研修の基盤になっていると思いますか？」に対して“そう思う (5 点) ”、“いづらかそう思う (4 点) ”、“どちらともいえない (3 点) ”、“あまりそう思わない (2 点) ”、“そう思わない (1 点) ”の 5 つの選択肢から 1 つ選択、【教育内容の振り返り】では、12 項目の教育内容について、最も評価できるもの、最も改善が必要と思われるものをそれぞれ 1 項

目ずつ選択するよう求めた。また、自由記載欄を設け、教育内容について最も改善が必要と答えた項目について、どのような改善が望まれるかの記載を依頼した。

得られた回答は、設問毎に、各選択肢の回答数と、総回答数（未回答者を除く）に対するその割合を示した。また、各卒業基準項目の卒業時達成度（卒後 1 年目アンケート結果）と臨床研修における貢献度（卒後 2 年目アンケート結果）を比較するために、それぞれの平均得点とその標準偏差、および、これら 2 時点の平均得点の差を示した。さらに、2 時点における回答の分布に有意な差が生じたか否かを、項目ごとに 2 標本両側コルモゴロフ・スミルノフ検定（有意水準：5%、多重比較補正なし）を行い、検証した。

4. 結果

(1) 卒後 2 年度目における調査結果

調査対象 107 人のうち 61 人から回答が得られた（回収率 57.0%）。

表 1 に各項目に対する回答の分布を示す。【現在の臨床研修における各卒業基準項目の貢献度】の分野で、平均得点が最も高かったのは「コミュニケーション能力」（3.98 点）であり、平均得点が最も低かったのは「独創的探究心」（3.69 点）であった。

【教育内容の振り返り】について、最も充実していたと評価した人数がもっとも多かったのは「臨床実習」（33 人）の分野であり、最も改善が必要と思われると評価した人数がもっとも多かったのは「英語教育」（13 人）の分野であった。最も改善が必要と答えた項目についてどのような改善が望まれるのか、自由記載欄に 21 件の回答があった。

(2) 各卒業基準項目の卒業時達成度と臨床研修における貢献度の比較

各卒業基準項目に対する卒業時達成度については、卒後 1 年度目（2023 年度）に調査を実施し、調査対象者 107 人のうち 69 人（回収率 64.5%）から回答が得られた。今回の結果と卒後 1 年度目の結果を比較するために、各卒業基準項目に対するそれぞれの平均得点と標準偏差、および、2 時点間の平均得点の差を表 2 に示す。また、2 標本両側コルモゴロフ・スミルノフ検定（有意水準：5%、多重比較補正なし）により 2 時点間の回答に有意な差が認められる項目を探索した。

卒後 1 年目時点から今回にかけて平均得点が増加した項目はなく、「地域社会への貢献」でのみ変化がなかった。最も減少したのは「コミュニケーション能力」（0.22 点減少）であった。

すべての項目において、今回と卒後 1 年目時点との間で回答の分布に有意な差は認められなかった。

表 1. 各設問の回答分布

現在の臨床研修における 各卒業基準項目の貢献度		そう思う (5 点)		いくらか そう思う (4 点)		どちらとも いえない (3 点)		あまり そう思わない (2 点)		そう 思わない (1 点)	
Q1	医師としての プロフェッショナリズム	15	24.6%	32	52.5%	9	14.8%	4	6.6%	1	1.6%
Q2	コミュニケーション能力	16	26.2%	32	52.5%	9	14.8%	4	6.6%	0	0.0%
Q3	専門職連携	16	26.2%	28	45.9%	11	18.0%	5	8.2%	1	1.6%
Q4	医学および 関連領域の知識	15	24.6%	31	50.8%	11	18.0%	4	6.6%	0	0.0%
Q5	独創的探究心	11	18.0%	29	47.5%	13	21.3%	7	11.5%	1	1.6%
Q6	診療の実践	13	21.3%	29	47.5%	15	24.6%	3	4.9%	1	1.6%
Q7	地域社会への貢献	13	21.3%	30	49.2%	14	23.0%	3	4.9%	1	1.6%

教育内容の振り返り		最も充実していた		最も改善が必要	
Q1	教養教育	4	(6.6%)	8	(13.1%)
Q2	英語教育	2	(3.3%)	13	(21.3%)
Q3	基礎医学（講義）	3	(4.9%)	6	(9.8%)
Q4	基礎医学（実習）	2	(3.3%)	1	(1.6%)
Q5	社会医学（講義）	0	(0.0%)	0	(0.0%)
Q6	社会医学（実習）	0	(0.0%)	0	(0.0%)
Q7	臨床医学（講義）	11	(18.0%)	4	(6.6%)
Q8	臨床実習	33	(54.1%)	4	(6.6%)
Q9	アセンブリ教育	2	(3.3%)	10	(16.4%)
Q10	プロフェッショナリズム教育	0	(0.0%)	2	(3.3%)
Q11	カリキュラム全般	3	(4.9%)	10	(16.4%)
Q12	教員	1	(1.6%)	3	(4.9%)

※括弧内は各質問項目の未回答者を除いた割合

表 2. 卒後 2 年目時と卒後 1 年目時における各項目に対する評価の比較

卒業基準項目		臨床研修に対する貢献度 (卒後 2 年目時点) 平均得点 (標準偏差)	卒業時の達成度 (卒後 1 年目時点) 平均得点 (標準偏差)	平均得点の差 (2 年目-1 年目)
Q1	医師としての プロフェッショナリズム	3.92 (0.89)	4.13 (0.76)	-0.21
Q2	コミュニケーション能力	3.98 (0.82)	4.20 (0.71)	-0.22
Q3	専門職連携	3.87 (0.95)	3.96 (0.86)	-0.09
Q4	医学および関連領域の 知識	3.93 (0.83)	4.01 (0.65)	-0.08
Q5	独創的探究心	3.69 (0.95)	3.80 (0.83)	-0.11
Q6	診療の実践	3.82 (0.88)	3.91 (0.83)	-0.09
Q7	地域社会への貢献	3.84 (0.87)	3.84 (0.81)	0.00

5. まとめ

卒後2年目にあたる本学医学部2022年度卒業生を対象に、本学での卒業基準の達成が臨床研修にどの程度貢献しているかを評価いただくとともに、在学時の教育内容の充実度を振り返っていただき、本学のカリキュラムや教育環境に対する臨床研修医の視点からの評価を調査した。また、卒後1年目に実施した「卒業生アンケート」の結果とも比較し、卒業時の達成度と臨床研修における貢献度の関連について分析した。

卒業基準項目のうち、臨床研修に対して最も貢献度が高いと評価されたのは、「コミュニケーション能力」であり、最も低いと評価されたのは、「独創的探究心」であった。卒後1年目時点と比較すると、卒後2年目時点における各卒業基準項目の評価は、ほぼすべての項目において平均得点としては減少しているものの、有意差までは認められなかった。

教育内容について、最も充実していたと評価を受けたのは「臨床実習」（33人）で、最も改善が必要と評価を受けたのは「英語教育」（13人）であった。

なお、卒後1年目時点と卒後2年目時点での比較については注意が必要である。前者は、各自の達成度を尋ねているのに対して、後者ではその達成が臨床研修の基盤をなしているかを尋ねており評価の物差しが少し異なる。そのため、同一項目に対する卒後1年目から卒後2年目にかけた得点の増減は、現時点ではあくまで参考情報であり、今度複数年に渡って同一の調査を継続し、傾向を把握していく必要がある。

一方で、項目の順位関係に注目すると、卒後1年目時点で得点が高い項目は卒後2年目時点でも得点が高く、卒業時の達成度と臨床研修への貢献度の間には正の相関があると推測される。また、卒後2年目時点は項目間で平均得点の差は、最大3.98、最小3.69と非常に小さく、この点ではバランスの取れた教育カリキュラムが提供できていると評価できる。

最後に、本調査に協力いただいた2022年度卒業生で本学大学病院に勤務されている皆様、調査結果の回収にご尽力いただいた医学部学務課の皆様ほか、関係各位の皆様に感謝の意を表し、本報告書の結びとする。

資料：調査票の内容

【現在の臨床研修における各卒業基準項目の貢献度】

下記の卒業コンピテンシーを卒業時に達成したことは、現在の臨床研修の基盤に *
なっていると思いますか？

【参考】藤田医科大学医学部 卒業基準（ディプロマポリシー）

1. 医師としてのプロフェッショナリズム

医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力

2. コミュニケーション能力

お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くためのコミュニケーション能力

3. 専門職連携

患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力

4. 医学および関連領域の知識

医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用する能力

5. 独創的探究心

疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的な能力

6. 診療の実践

安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力

7. 地域社会への貢献

地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する能力

	そう思う	いくらかそう 思う	どちらともい えない	あまりそう思 わない	そう思わない
医師としての プロフェッシ ョナリズム	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
コミュニケー ション能力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
専門職連携	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
医学および関 連領域の知識	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
独創的探究心	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
診療の実践	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地域社会への 貢献	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【教育内容の振り返り】

現時点から藤田医科大学医学部の教育内容を振り返ってみて、以下の教育内容の *
うち最も改善が必要と思うものはどれですか？

- ☐ 教養教育
- ☐ 英語教育
- ☐ 基礎医学（講義）
- ☐ 基礎医学（実習）
- ☐ 社会医学（講義）
- ☐ 社会医学（実習）
- ☐ 臨床医学（講義）
- ☐ 臨床実習
- ☐ アセンブリ教育
- ☐ プロフェッショナリズム教育
- ☐ カリキュラム全般
- ☐ 教員

【自由記載欄】

上の質問で「最も改善が必要」と答えた項目について、どんな改善が望まれますか？ご意見・ご提案を自由にお書きください。

回答を入力